



コルクで循環、笑顔も循環、 コルクで繋がる、多様な働き方。



●捨てないで！から始まったUpcycle Project

新潟県十日町市にある「あてま高原リゾートベルナティオ」SDGs委員会は、この度、地域方々と協力し、**コルクの再資源化・アップサイクルプロジェクト**を始動いたしました。本プロジェクトでは、ホテルや地域内の飲食店から回収したコルク栓を、NPO法人RE機構と協業している120年の歴史を持つ老舗コルクメーカー永柳工業株式会社（東京都墨田区）の協力のもと、障がい者の方々に選別や加工を依頼。障がい者の特性を活かした丁寧な手作業によって、個性豊かなコルク製品を生み出します。

●プロジェクトの背景と目的

近年、SDGsの達成に向け、地域における循環型社会の実現が求められています。当ホテルでは地域社会への貢献と環境負荷の低減を目的としたSDGs委員会を設立し、様々な取り組みを行ってきました。今回のプロジェクトは、これらの取り組みの一環として、以下の目的を掲げています。

- ①**地域資源の循環**：廃棄されるはずだったコルクに新たな価値を与え、循環型社会の実現に貢献します。
- ②**地域のコミュニケーション**：地域の飲食店との連携により、コミュニケーションの活性化に貢献します。
- ③**コルク回収BOXの設置**：ホテルのバックヤードにコルク回収BOXを設置し、スタッフの環境への意識を高めるきっかけをつくります。

●コルクがもたらすもの

コルクは、軽くて手触りが良く、安全に扱える素材であるため、障がいの種類や程度に関わらず、多くの方が作業に参加することができます。また、一つひとつのコルクが異なる形状や模様をしていることから、作業の飽きを解消し、脳の活性化にもつながることが期待されます。

●今後の展望

本プロジェクトを通じて、コルク製品の販売やワークショップの開催など、新たな交流モデルの創出を目指すとともに、地域住民や観光客への啓発活動も積極的に行っていきます。また、コルク製品の製造過程をレストランや宿泊客に展示公開します。



●ベルナティオSDGs委員会の紹介

発 足：2019年
委員長：大瀧佳希
委員数：7名
主な受賞：第2回にいがたSDGs アワード優秀賞
タイトル：日本のこどもたちからアフガニスタンのこどもたちに「笑顔でつなぐランドセルプロジェクト」を受賞

●日本のコルク事情

コルクは優秀な自然素材ですが、日本では栽培できず、輸入に頼っています。ワインのコルク栓などに使われますが、使用後のコルクはほとんどが焼却処分されています。日本では1年間で約4億本のワインが消費しています。

●二つの再生コルクから1つのコースターに。

右の写真はベルナティオSDGs委員会でデザイン検討中。



●upcycle project

アップサイクルとは、廃棄予定だったものに手を加えて、新たな価値を生み出し別の製品として生まれ変わらせることです。アップサイクル製品は利用者にとっても価値が高く、環境負荷を減らせるために注目を集めています。

●コルクの再生がSDGsに貢献する理由

働きがいも経済成長も(目標8) つくる責任つかう責任(目標12)
気候変動に具体的な対策を(目標13) 陸の豊かさを守ろう(目標15)



コルクの再生は、誰かの役に立つ仕事を生み出す

障害のある人たちにも活躍の場を！コルクの再生には、障害者施設の方々が活躍しています。コルクをきれいにしたり、新しい製品に加工したりする作業を通して、自信ややりがいを感じてもらえるように取り組んでいます。社会貢献にもつながる 障害者の方々が作った製品は、私たちの日用品として活躍します。これによって、社会全体で障害のある人たちをサポートできる仕組みができます。

ゴミを減らして、地球の資源を守る

私たちが普段捨ててしまうコルクを、新しいものに生まれ変わらせることで、ゴミの量を減らすことができます。地球の負担を減らす ゴミを減らすことは、ごみを処理するためのエネルギーを節約することにもつながります。地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を減らすことにも貢献できます。

森を守り、自然の恵みを大切に

何度も資源を与えてくれる コルクは、コルクの木の樹皮から作られます。この木は、樹皮を剥がしても枯れることがなく、何度も樹皮を採取することができます。自然と共存する コルクの再生は、森を大切に、自然の恵みを無駄にしないという考え方につながっています。

●UPCYCLE FLOW

